

# 令和5年度 第2回富山県公立高等学校連絡会議の開催結果

日時：令和6年1月24日(水)10:00～11:20

場所：富山県農協会館 903号室

出席者：経営管理部次長（座長）、私学関係者4名、県教育委員会4名、学術振興課長、中学校長会1名 計11名

（出席者からの主な発言・意見等）

※ 今回、中学校長会から1名出席いただき、公私の魅力向上に向けた取組みの推進について意見交換を行った。

## 1 公私の魅力向上に向けた取組みの推進

### （1）県内高校の魅力について

- ・ 中学では高校側からの資料や、中学校長会で作成している「進路のしおり」等を活用して各高校の特徴を伝えている。
- ・ どんなことに魅力を感じるかは、生徒それぞれ視点は異なるが、制服や生活のきまりなど生徒目線でのことに興味・関心を持つ生徒は多い。
- ・ 資料や説明で高校に興味・関心を持った生徒は、自分でHP等で調べている。
- ・ 写真等を用いて、生徒が知りたいと思う高校生活がイメージできるような生徒目線の分かりやすい資料が良い。

### （2）県外に進学する生徒について

- ・ 部活動が理由の県外進学について、必ずしも生徒への連絡の時期が早いか遅いかで進路が左右されるわけではない。
- ・ 生徒が県外進学を考えている場合、メリット・デメリットや本人の性格等を考慮し、本人・保護者の相談に乗っている。
- ・ 広域通信制への進学理由については、集団で生活することや決められた時間に従って行動するという学校生活のリズムが自分に合わないなどが多くなっている。したがって、他校との併願ではなく、広域通信制を第一希望としている。

### (3) その他

- ・ 中学校では、1年生から計画的に進路指導を行っている。
- ・ 自分の進路について、より意識を高められるよう、2年生の段階で、工業・商業など高校の学科についてより具体的な学びができるような取組みを行っており、今後広めていきたい。
- ・ 3年生での進路指導では、①高校の様々な情報を提供する。②個々の生徒の特性や人柄などを踏まえて、本人、保護者と話し合うことを通して、適切な進路選択ができるよう支援している。
- ・ 三者面談等では、本人・保護者の思いにほぼ相違はなく、保護者の思いが進路に影響することは少ない。
- ・ 高校から推薦で声をかけてもらう際には、個々の生徒の良さをしっかりと判断し、中学校側及び生徒・保護者に伝えることで、進路決定の判断材料の一つになると考えている。
- ・ 中学校側と高校側との意見交換を継続して行っていきたい。

### (4) 今後の課題や取組みについて

- ・ 県立推薦入試における県内私立高校の部活動の対応について、取り決められている留意事項を周知徹底して欲しい。
- ・ 中学校での部活動が地域移行にすすむと、地域のクラブ活動に対して、県外からのスカウティングが増加することが懸念される。
- ・ 県外進学が進む中、県内高校を選択してもらえよう、魅力向上に努めることが急務である。

## 2 公私比率のあり方

- ・ 現在の公私比率は令和7年度まで合意しているもの。今後は、定員未充足が検討課題となるのではないかと。
- ・ 公私比率の是非について、これまでの考え方を維持することは難しいと考えている。新しい考え方が必要である。
- ・ 公私比率は形骸化されている。大まかなものでも良い。
- ・ 経常費助成の増加など経営の安定化を図ることができるのであれば、比率は無くても良い。県全体の魅力向上につながるのではないかと。
- ・ 新しいルールが必要だと思うが、具体的な内容については、今後準備を進めていきたい。
- ・ 地区ごとに公私比率を決めることについては、メリットやデメリットがある。
- ・ 新年度は県立高校再編も念頭に置きながら、公私比率が必要かどうかも含めて考えていかなければならない。